

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 21日から22日にかけて、前線が北・東日本付近を通過し、高気圧が日本海を移動する。
- 23日は、高気圧が北日本を通過し、前線が日本の東にのびる。
- 24日から25日にかけて、低気圧が中国東北区からサハリン付近に進み、低気圧からのびる前線が北日本付近を進む。

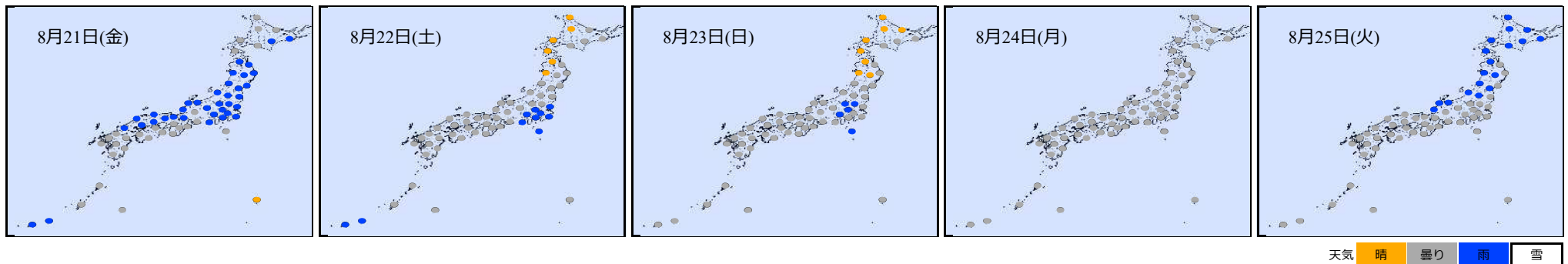
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 22日頃にかけて、熱帯低気圧を回る暖かく湿った空気の影響で、沖縄・奄美では大雨となる所があり、暖かく湿った空気の流れ込みの程度等によっては、警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

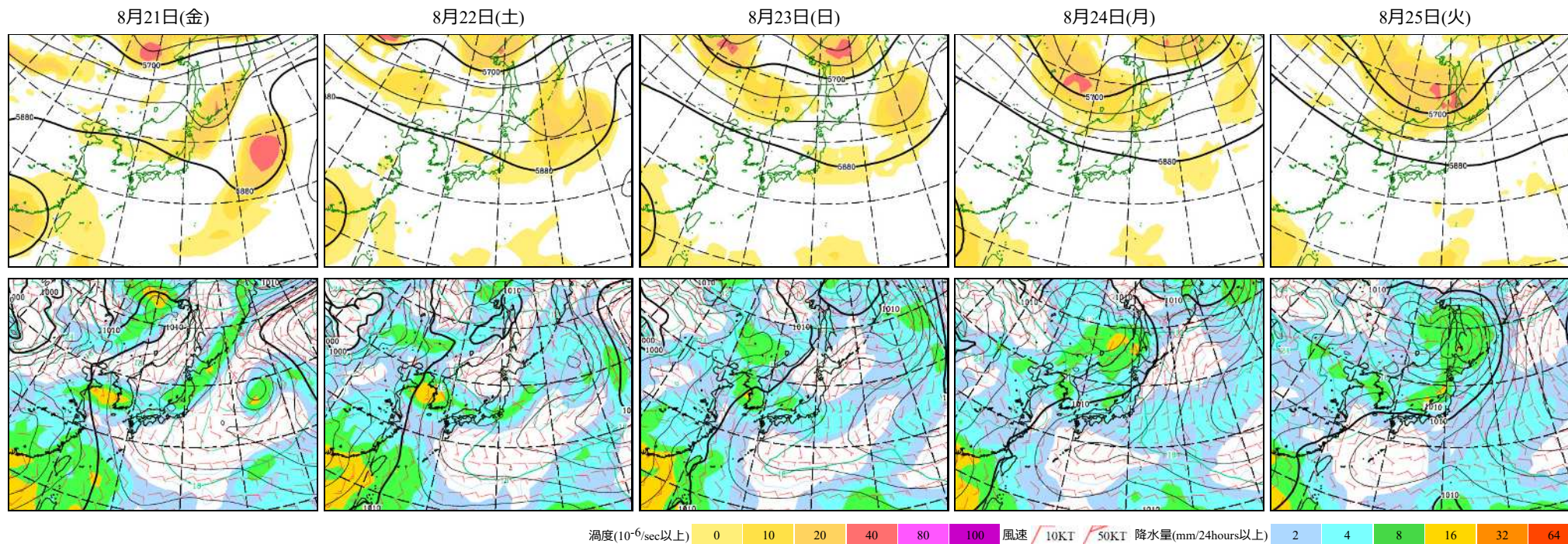
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

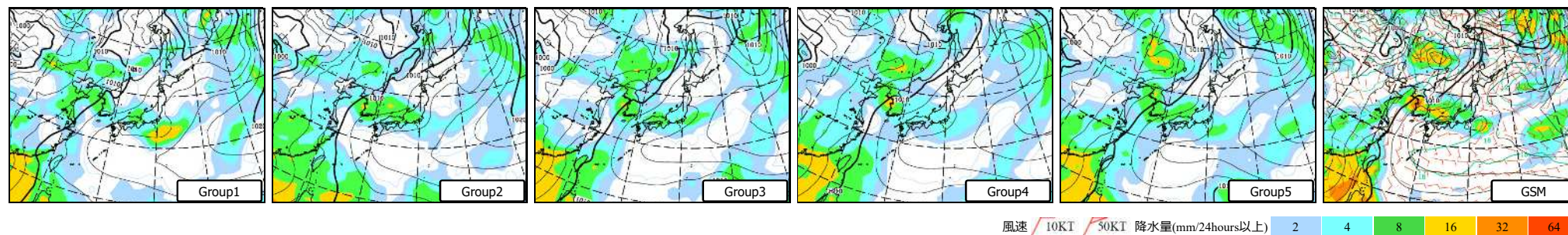


- 北日本は、雲が広がりやすく、21日と25日は雨の降る所があるが、22日と23日は晴れる所もある。
- 東日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 西日本は、雲が広がりやすく、21日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、21日と22日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月23日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、21日から22日にかけて北日本を通過するトラフや25日頃に北日本を進むトラフの東進がやや早くなった。地上の気圧配置は、25日は低気圧がサハリン付近に進む予想になった。
- 予報期間中、日本モデルは日本の南に高気圧が張り出すが、海外モデルは高気圧の張り出しが弱い。23日以降は海外モデルの初期値変わりが大きくなっている。
- 23日は、GSMは高気圧を回る湿った空気が朝鮮半島付近から東・西日本に流れ込む予想となっているが、海外モデルは湿った空気が流れ込む予想はない。ENSは、それぞれのモデルに近いメンバーを含んでおり、不確実性が大きくなっている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。